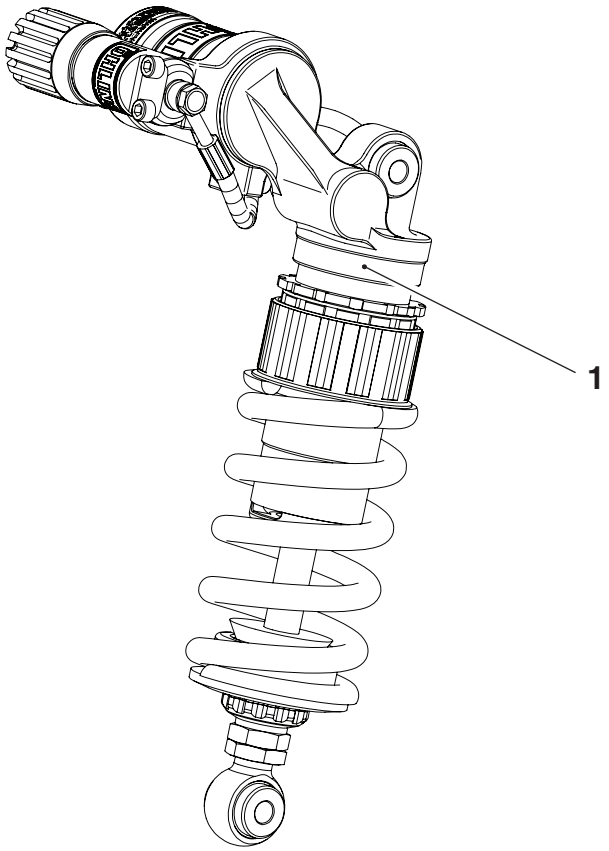
日本語

取付方法説明書：
Daytona 675
A9640018

この度は本 Triumph 純正アクセサリーキットをお選びくださいまして、誠に有難うございます。本アクセサリーキットは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

アクセサリーキットの取り付けを始めるに先立って、本キットの機能とその取り付けプロセスを完全に理解して頂くために、これら全ての指示に十分目を通してください。

これらの指示は、お買い上げのアクセサリーキットの永久パーツとみなされるべきものです。たとえそのアクセサリーを装備したモーターバイクがその後売却されたとしても、アクセサリーに付けてやらなければなりません。



供給パーツ：

1. リアサスペンションユニット　　1 セット

出版部品番号 A9900520 第 1 号、ADC 9077
© Triumph Designs Ltd. 2010

警告

Triumph 認定パーツ、アクセサリー、改造品などの取り付けは、正規 Triumph ディーラーの熟練技術者にお任せください。正規 Triumph ディーラーと関係のない技術者によってパーツ、アクセサリー、改造品などの取り付けが行われた場合、操縦性、安定性、その他に影響を及ぼし、モーターバイクを制御しきれなくなって、事故に至る恐れがあります。

警告

このアクセサリーキットは、Triumph Daytona 675 モーターバイク上でのみの使用を目的として製造されており、その他の Triumph モデルや他のメーカーのモーターバイクに装備してはなりません。このアクセサリーキットを他の Triumph モデルや他のメーカーのモーターバイクに装備すると、バイクの安定性と操縦性に影響を及ぼします。それは、ライダーのモーターバイクをコントロールする能力に影響を与え、事故を招く恐れがあります。

警告

この作業を行なっている間は、モーターバイクの落下による人身事故の発生を未然に防ぐために、バイクをしっかり固定し、適切に支えるようにしてください。

警告

このアクセサリーキットの取り付けをする時は、精密較正で定評のあるトルクレンチを使用する必要があります。規定トルクでファスナーを締め付けないと、モーターバイクの性能、操縦性、安定性に影響を及ぼします。そうすると、モーターバイクを制御しきれなくなる結果、事故に至る恐れがあります。

警告

エンジンを切った直後は、排気装置の温度が高くなっています。排気装置そのもの、またはその付近を扱う場合は、作業を始める前に十分時間をかけて排気装置を冷ましてください。どの部分であろうと高温の排気装置に触れると火傷をする恐れがあります。

注記：

- **リアサスペンションユニットを取り付ける前に、モーターバイクをきれいにします。**

1. サービスマニュアルに記されている要領でリアサスペンションユニットを取り外します。
2. サービスマニュアルに記載されているとおり、モーターバイク左側に向けて、リザーバーと共にキット同梱のリアサスペンションユニットを取り付けます。

調整

警告

通常の運転に使用する場合、標準設定にしたリアサスペンションユニット長を変更しないでください。

長さを調整しようとすると、危険な走行状態に陥ってバランスを崩し、事故を招く恐れがあります。

標準設定

低速ストローク圧側減衰	10 回のカチッ音
高速ストローク圧側減衰	30 回のカチッ音
伸側減衰	15 回のカチッ音
スプリング自由長	150 mm
スプリングプリロード	15 mm
リアサスペンションユニット長	293.5 mm
ストローク	54.5 mm

リアサスペンションユニット設定値表

警告

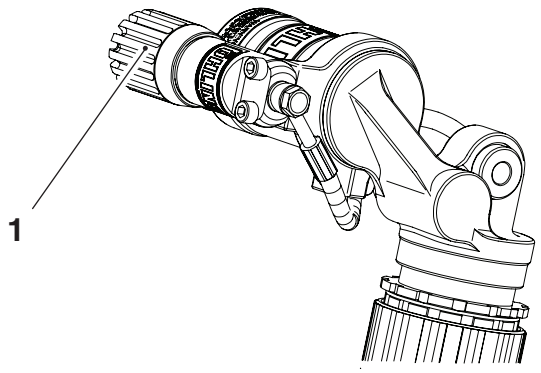
以下の設定に基づき、フロントとリアサスペンションの間が、適当なバランスで保たれていることを確認してください。サスペンションの不均衡は、操縦特性に著しい変化をもたらす可能性があり、バイクを制御しきれなくなって事故を起こす場合があります。フロントサスペンション設定に関しては取扱説明書を、Öhlins リアサスペンション設定に関しては、以下のサスペンション設定表を参照にするか、ディーラーにお問い合わせください。

注記：

- **このサスペンション設定表はあくまで目安に過ぎません。ライダーの体重や好みにより、設定条件は変わります。**
- **Daytona 675 のフロントサスペンション設定に関しては、取扱説明書を参照にしてください。**

予圧設定	スプリングプリロード	低速ストローク圧側減衰	高速ストローク圧側減衰	伸側減衰
標準	10 回転	10 回のカチッ音	30	15
ライダーと同乗者	2 回転	7 回のカチッ音	30	13
調整ノート	完全に時計回りに回しきった（最大の）位置から回し戻した数	完全に時計回りに回しきった（最大の）位置からカチッと音を立てて回し戻した数	完全に時計回りに回しきった（最大の）位置からカチッと音を立てて回し戻した数	完全に時計回りに回しきった（最大の）位置からカチッと音を立てて回し戻した数

スプリングプリロード



1. スプリングプリロードアジャスター

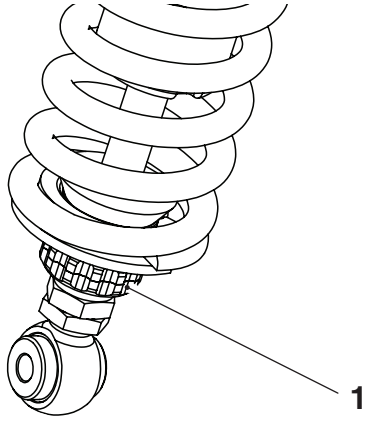
スプリングプリロードアジャスターを、サスペンションユニットリザーバーにセットします。

スプリングプリロードを変更するにあたり、プリロードを大きくするにはアジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。必ず、アジャスターを時計回りに目一杯回した状態から回し戻した数を数えてください。

注記：

- **時計回りに回しきった（最大の）位置から、10回転戻したスプリングプリロードアジャスター付き、リアサスペンションユニットを工場から出荷します。**

伸側減衰



1. 伸側減衰アジャスター

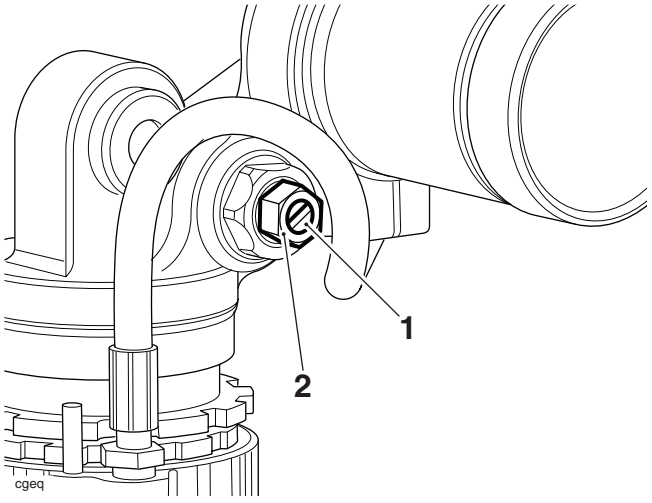
伸側減衰アジャスターホイールを、下側取り付け部上側にある、ピストンシャフトにセットします。

伸側減衰の設定を変えるにあたり、大きくするにはアジャスターを時計回りに回し、小さくするには反時計回りに回します。必ず、アジャスターを時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数を数えてください。

注記：

- **時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数が 15 回の伸側減衰アジャスター付き、リアサスペンションユニットを工場から出荷します。**

圧側減衰



1. 低速ストローク圧側減衰アジャスター
2. 高速ストローク圧側減衰アジャスター

圧側減衰アジャスターは、リアサスペンションユニットリザーバ最上部にあります。

低速ストローク圧側減衰の調整

低速ストローク圧側減衰力を調整する場合、大きくするにはスロット付きアジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。必ず、アジャスターを時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数を数えてください。

高速ストローク圧側減衰の調整

高速ストローク圧側減衰力を調整する場合、大きくするには六角アジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。必ず、アジャスターを時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数を数えてください。

注記：

- **低速ストロークアジャスターは、高速ストロークアジャスターと一緒に回転します。低速ストローク圧側減衰の調整に悪影響を及ぼしません。**
- **時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数が 10 回の低ストローク圧側減衰アジャスター付き、リアサスペンションユニットを工場から出荷します。**
- **時計回りに回しきった（最大の）位置から、カチッという音の数が 30 回の高ストローク圧側減衰アジャスター付き、リアサスペンションユニットを工場から出荷します。**

クリーニングとメンテナンス

水と低刺激の自動車洗剤で、定期的にリアサスペンションユニットを清掃します。清掃時、ラバーバンパーストップを持ち上げて、ストップの下になる箇所を清掃します。

アジャスターノブとサスペンションユニット取り付け部に、直接強く水をかけるのを避けてください。

清掃の際、ユニットにオイル（WD-40 または同等品）を塗布し、布で余分なオイルを拭き取ってください。

⚠ 注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

チェック

定期的に、リアサスペンションユニットの以下のコンポーネントをチェックしてください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

- 玉軸継手 – 遊びが大きすぎないかチェック
- ピストンシャフト – フルード漏れと損傷をチェック
- リザーバー – 外部損傷をチェック
- 取り付けナットとボルト – ナットとボルトの緩みと損傷をチェック

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。

奨励する点検間隔

リアサスペンションユニットを安全かつ高信頼性の状態に保つため、以下の間隔で正規 Öhlins ワークショップの整備を定期的に受けてください。

リアサスペンションユニットの奨励する点検間隔は、以下のとおりです。

レース用

- 運転の 10 時間ごと
- 点検やオイル交換なしの場合、最大で運転の 20 時間ごと

一般道路で使用の場合

- 30,000 キロごと